

BAD SAMPLE

——絶対に真似してはいけないレポート——

※このレポートはフィクションです。実在する人物によって提出されたレポートではありません。しかし、実際には、これにかなり近いレポートがいくつも出されました。

名前：論文ダメ子 学籍番号：20121205

「哲学のすすめ」(〇〇教授) レポート課題：(1). デカルトが『方法序説』(1637) で述べた方法論について、その学説を 2000 字以内でまとめなさい。(2). (1)でまとめたことをもとに、学問あるいは科学の方法について、自分の考えを 2000 字以内で論じなさい。

(1). <デカルト>

ルネ・デカルト (仏: René Descartes, 1596 年 3 月 31 日 - 1650 年 2 月 11 日) は、フランス生まれの哲学者・自然哲学者 (自然学者)・数学者。合理主義哲学の祖であり、近世哲学の祖として知られる。考える主体としての自己 (精神) とその存在を定式化した「我思う、ゆえに我あり」は哲学史上でもっとも有名な命題の 1 つである。そしてこの命題は、当時の保守的思想であったスコラ哲学の教えであるところの「信仰」による真理の獲得ではなく、信仰のうち限定してではあれ、人間の持つ「自然の光 (理性)」を用いて真理を探求していこうとする近代哲学の出発点を簡潔に表現している。デカルトが「近代哲学の父」と称される所以である。

[. . .]

<デカルトの 4 つの規則>

- ・ 第一規則 . . . 明証生
- ・ 第二規則 . . . 分析
- ・ 第三規則 . . . 総合
- ・ 第四規則 . . . 枚挙

明証生 . . . 私が明証的に心理であると認めるものでなければ、いかなる事柄でもこれを真なりとして認めないこと

分析 . . . 検討しようとする難問をよりよく理解するために、多数の小部分に分割するこ

と

総合・・・もっとも単純なものからもっとも複雑なものの認識へと至り、先後のない事物の間に秩序を仮定すること

枚挙・・・最後に完全な列挙と、広範な再検討をすること

<コギト命題>

「我思う、ゆえに我あり」は、デカルトが『方法序説』(Discours de la methode)の中で提唱した有名な命題である。一切を疑うべしという方法的懐疑により、自分を含めた世界の全てが虚偽だとしても、まさにそのように疑っている意識作用が確実であるならば、そのように意識しているところの我だけはその存在を疑い得ない。「自分は本当は存在しないのではないか？」と疑っている自分自身の存在は否定できない。—“自分はなぜここにあるのか”と考える事自体が自分が存在する証明である(我思う、ゆえに我あり)、とする命題である。コギト命題といわれることもある。

参考：ウィキペディア

(2). 方法的懐疑。私は、このデカルトの考えがとても好きです。「我思う、えに割れあり」というあの有名なコギト命題を確率しましたが、そのためにとった方法が、この方法的会議です。デカルトのおかげで、私も自分の存在を証明することができて、良かったです。すべてを疑うことは難しいと思いますが、わたしも、デカルトの方法を、日々の生活に役立てていければいいな、と思います！

[・・・]

授業を受けてみて、やっぱり哲学はすごい難しいなあと感じました。私には無理そうです(笑)。でも、少し面白さがわかって、この授業には感謝しています。もう少し、真面目に哲学勉強すればよかったな、といまさら後悔しています。何だかうまく書けなくて、すみませんでした(汗)。けれども、この授業のおかげで、自分で考えることができました。最後に、先生、素晴らしい授業をどうもありがとうございました☆

PS. この単位がないと卒業できないし、もう内定も決まっているので、できれば単位がもらえるとうれしいです(´ω´)。